

| 管内  | 学校名  | 学級数 | 種別      |
|-----|------|-----|---------|
| 北会津 | 城西小  | 1   | 精簿学級    |
| "   | 謙教小  | 1   | "       |
| "   | 城地小  | 1   | "       |
| 耶麻  | 喜多方小 | 1   | "       |
| "   | 喜多方小 | 1   | "       |
| 石城  | 平五小  | 1   | "       |
| "   | 勿一来小 | 1   | "       |
| "   | 高坂小  | 2   | "       |
| "   | 湯本小  | 1   | "       |
| "   | 湯本小  | 2   | "       |
| "   | 長倉小  | 1   | "       |
| "   | 名浜小  | 2   | "       |
| "   | 植田小  | 1   | "       |
| 双葉  | 浪岡小  | 1   | "       |
| "   | 富江小  | 1   | "       |
| 相馬  | 中村小  | 2   | "       |
| "   | 鹿島小  | 1   | "       |
| "   | 原町小  | 2   | "       |
| "   | 小高小  | 1   | "       |
| 安積  | 小開小  | 1   | 病弱、虚弱学級 |
| 双葉  | 須賀川小 | 1   | "       |
| "   | 大野小  | 2   | "       |

### 中学校

| 管内  | 学校名   | 学級数 | 種別      |
|-----|-------|-----|---------|
| 信夫  | 福島中   | 3   | 精簿学級    |
| "   | 島陵中   | 3   | "       |
| 伊達  | 信原中   | 1   | "       |
| 安積  | 保原中   | 2   | "       |
| 岩瀬  | 郡山二中  | 2   | "       |
| "   | 須賀川二中 | 1   | "       |
| 西白河 | 白河中央中 | 1   | "       |
| "   | 矢吹中   | 1   | "       |
| 石川  | 石川中   | 3   | "       |
| 北会津 | 石松中   | 2   | "       |
| 耶麻  | 喜多方中  | 1   | "       |
| 石城  | 平三小   | 1   | "       |
| "   | 湯本一中  | 3   | "       |
| "   | 湯本一中  | 2   | "       |
| 双葉  | 小名浜中  | 1   | "       |
| "   | 浪岡中   | 1   | "       |
| 相馬  | 中村一中  | 2   | "       |
| "   | 原町一中  | 2   | "       |
| 伊達  | 北六中   | 1   | 病弱、虚弱学級 |
| 安積  | 郡山六中  | 1   | "       |
| 岩瀬  | 須賀川三  | 1   | "       |
| 双葉  | 大野中   | 1   | "       |

### (3) 東北、北海道地区精神薄弱教育講座

- ① 期日 7月22日～29日(8日間)
- ② 会場 福島市飯坂小学校
- ③ 主備 文部省、福島県教育委員会  
講座内容は精簿児の特性、生活指導、判別の方法、教育課程の編成といった講義で今後の精簿児指導にあたっての中での指針をあたえたものであった。

### (4) 福島県特殊教育研究会郡山大会

- ① 期日 1月22日～23日(2日間)

- ② 会場 第1日 県立養護学校  
第2日 郡山市立芳山小学校

- ③ 研究主題  
「恵まれない子どもの教育をどうすすめたらいいか」  
○特殊教育施設の設置と管理について  
○特殊教育の学習指導について  
○特殊児童、生徒の取り扱いについて
- ④ 講演  
演題「恵まれないこどもの教育をどう進めたらよいか」  
講師 文部省初等中等教育局特殊教育課  
文部事務官 松原隆三氏  
この研究大会のねらいは、特殊教育諸学校、特殊学級担当の教師が、いっしょに会して特殊教育という立場から恵まれないこどもの指導について研究討議が進められた。  
○第1日は盲、聾の授業、肢体不自由児童、生徒を対象とした学習指導、特殊学級の学習訓練といった多彩な授業が展開された。  
○実態研究発表においては、それぞれの立場において、特殊教育の実践について発表がなされた。発表内容は児童、生徒の実態をふまえた問題点解明にあたっての研究内容で非常に充実されたものであった。今後の特殊教育に利益することが大であった。  
○第2日は講師よりわが国における特殊教育の実態と今後の方向について貴重な講演がなされた。

## 4 教職員の研修について

特殊教育の重要性から本年度は長期研修生(6か月)盲、聾学校、養護学校より各2名東京教育大学東京学芸大学において、それぞれ専門分野について研修を行ない、多大の成果をあげることができた。  
特殊教育の振興という点から、県においてもできるだけ研修講座を多くもち、研修の機会をふやすよう努力していきたいと思う。

## 第10節 学校図書館

### 1 概況

文部省では、昨年度に引き続き、本年度も研究協議会を開催した。つまり、学校図書館の学校教育において占める位置を、明確化したいのである。  
学校図書館が単なる貸本屋的存在でなく、学校の文化センターとして、視聴覚教材や各種資料を備えた、「組織化された教材センター」たる性格を持つものであることは、どうやら、一般に認識されてきたようである。